

森林整備VI

海上の森大学実習林整備計画

日時：平成25年12月21日（土） 10:00～15:00

講師：田中 隆文（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授）

概況



科目名：森林整備VI 海上の森大学実習林整備計画

講師：名古屋大学大学院生命農学研究科 田中 隆文 准教授

海上の森遊歩施設を赤枠部分、青枠部分、黄枠部分（資料参照）に分け、受講生が1班（赤枠）、2-A班（青枠）、2-B班（青枠）、3-A班（黄枠）の4班に分かれ、グループディスカッションおよび発表が執り行われた。

1-A班（赤枠）は、「建物の有効活用」をコンセプトに、窯の歴史館や繭玉広場において宿泊をすることによりナイトウォークや天体観測、夜行性のムササビなどの観察を行うこと、ホトケドジョウや古窯の歴史についてボランティアが語り部となることや、子供たちをはじめ多くの人たちに来てもらうために、海上の森の住人たちの「物語」をつくることによって話題性をつくること、繭玉広場にベンチを設置して休憩スペースとすること、について発表がなされた。

2-A班（青枠）は、里山紹介の「見本の場所にすること」をコンセプトに、伐採した木を用いて炭焼きをすること、トロッコを走らせ移動時間の短縮や木材の運び出しをすること、衣食住・仕事につながることを体験できる「体験プレーゾーン」をつくり、自然に興味をもってもらうこと、海上の森の導入部分として雑木の整備をすることにより日の当たる土地にし、自由にハンモックをかけられるなど入り込みやすいエリアにすること、について発表がなされた。

2-B班(青枠)は、「山桜の萌芽を促す」ことをコンセプトに、周辺の木を伐採して林床に光を入れ萌芽を促すこと、子供たちに自然を感じてもらい駆け巡れるようにすること、所々に休憩できる場所をつくること、「ビートルズベッド」によって堆肥をつくること、「生物多様性の森」としてリスやムササビの餌となるアカマツを守ることやコゲラなどの利用観点から立ち枯れを少しずつ残しておくこと、について発表がなされた。

3-A班(黄枠)は、「物見の丘の整備」をコンセプトに、物見の丘周辺の回遊できる道づくり、里山サテライトのように休憩ポイントとすること、アベマキをシンボル木にし、ツリーハウスをつくること、子供たちに知ってもらい、1日楽しめる「フリースペース」をつくること、について発表がなされた。

その後、田中先生により総括がなされ、「人間側での計画」になっており、森林が変わってくること、森林のネガティブ面とポジティブ面の両立が必要であるとされた。

